

連載「報われぬ国」でお伝えした「お泊まりデイ」（1月13日付朝刊）と「措置控え」（同27日付朝刊）に対し、多くのご意見が寄せられました。これらをもとに取材した結果や反論などを紹介します。

反響編

首都圏が大雪に見舞われた8日夜、埼玉県草加市にある一戸建て住宅に9人の高齢者が寝ていた。デイサービス事業所が1晩千円ほどで提供する「お泊まりデイ」の利用者だ。

60代から100歳近くの男性4人と女性5人。20畳ほどの部屋にベッド五つとふとん4枚を敷き、雑魚寝のような状態だった。

雇のデイサービスは定員いっぱい10人が利用し、夕方に帰ったのは1人だけ。9人はだいたいこの事業所に泊まっている。特別養護老人ホームは空きがなくて、高額な有料老人ホームにも入れないからだ。

1月末、男性の一人がノロウイルスに感染し、救急車で運ばれた。病院は点滴などをしたが、入院を認めない。結局、お泊まりデイに戻され、ほかの高齢者5人や職員にもうつった。

その混乱のさなか、90代の男性が頭を11針縫うけがをした。宿泊者が多くて2階の部屋に泊まっていたため、職員が目を見送った時に転んで頭を打った。「経営者がもうけ優先で利用者を

増やし、無理を押しつけている」と、職員は話す。

「お泊まりデイの経営者は不動産や飲食などからの参入が多く、介護現場を知らない。ほかの施設に入れない高齢者が詰め込まれている」。千葉県内のお泊まりデイ事業所で働く男性職員(66)も指摘する。

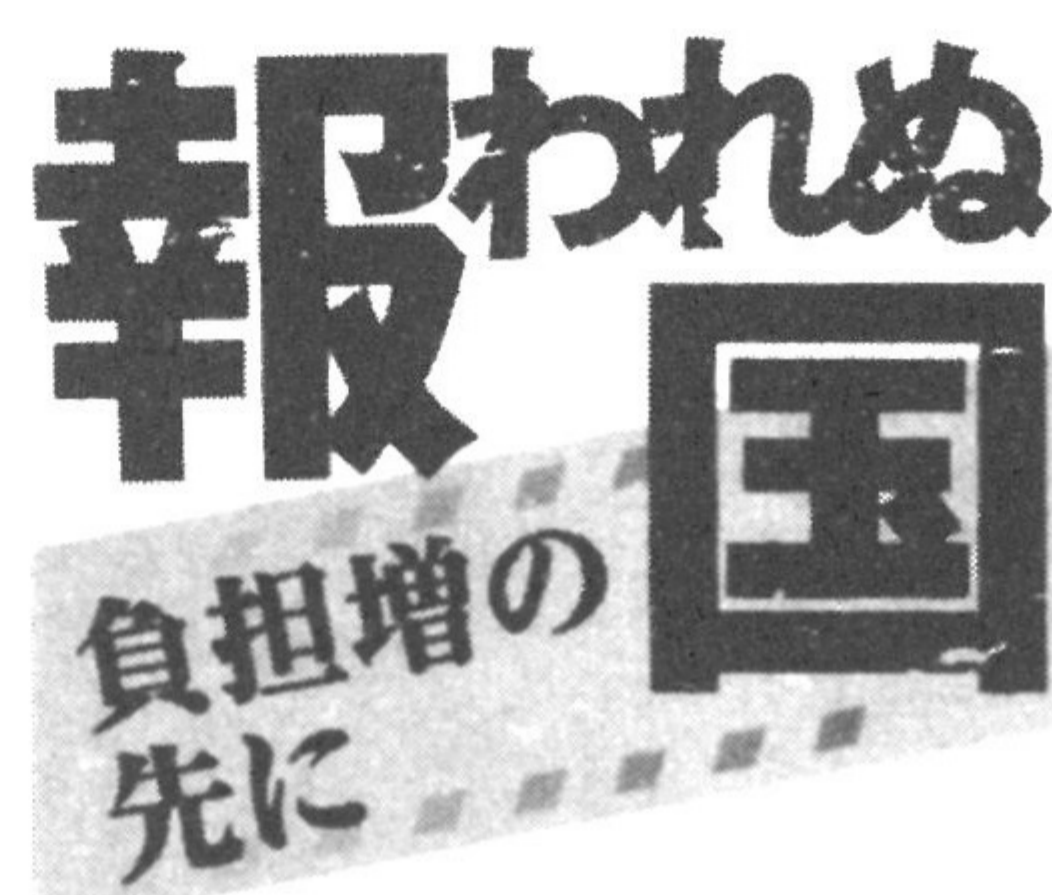
過酷な労働条件

1年前まで千葉県内のお泊まりデイ事業所にいた女性職員(39)は、宿直の日には午前9時から翌日午後5時まで32時間続けて働いた。夜勤手当は月に5回目の夜勤からしか出ず、残業代もほとんどつかなかったという。「もう二度とやりたくない」と話す。

神奈川県で介護相談員をしている60代の女性は、お泊まりデイ事業所で知り合った女性管理者が忘れられない。勤務表を見せられて「うと、1年間で数日しか休んでいなかった。」「大丈夫なの」と尋ねると、「この仕事が好きだから

介護費用や食事代などを含めたお泊まりデイの自己負担額。あくまでも目安で、要介護度や地域によってばらつきがある

| | 月々の自己負担額のめど |
|-----------------|------------------|
| 特別養護老人ホーム(4人部屋) | 8万~10万円前後(要介護5) |
| 特別養護老人ホーム(個室) | 10万~15万円前後(要介護5) |
| お泊まりデイ | 10万円前後(昼も含む) |
| サービス付き高齢者向け住宅 | 10万~20万円以上 |
| 有料老人ホーム | 20万~30万円以上 |



お泊まりデイ

昼に自宅から通うデイサービス事業所が提供する宿泊サービス。一戸建て住宅などを利用した施設に1晩千円前後で泊まり、宿泊には介護保険を使えない。

老人ホームなどと違い、国が部屋の広さなどの基準を設けておらず、狭い部屋に高齢者が詰め込まれるなど「劣悪な環境」との指摘がある。東京都などは独自の基準を設けたり、届け出制にしたりしている。

全国にはデイサービス事業所が約3万7千カ所ある。三菱UFJリサーチ&コンサルティングのアンケート(1576事業所が回答)では、8.3%が宿泊サービスを提供していた。

ら」と答えた。「過酷な労働条件でも現場の職員らはがんばっている」と思う。

別の事業所では、お泊まりデイの運営会社が経営する飲食店から異動した男性が管理責任者を務めている。慣れない介護をこなしながら、勤務時間が終わっても、食事代を抑えるために閉店前のスーパーの安売りで買い出しをしていた。

「経営者がもうけのため「8割問題なし」にまじめな職員らを利用している例がある。行政は指導や研修を充実させ、現場の人を支えてほしい」

「8割問題なし」

一方、高齢者の介護計画などをつくるケアマネジャーをやる横浜市(46)は、お泊まりデイは「救世主」と反論する。病院から退院を求められても特養などの引受先が不十分のため、最後の頼みになるという。高齢者を預ければなしで

面会に出来ない親族も多いと感じる。「連絡は死んだときだけでいい」と答える人さえいる。そうした親族を持つ高齢者は、お泊まりデイで救われている

お泊まりデイ事業所の8割はきちんと世話をしている。問題がある例を強調するのはどうか」と疑問を投げかける。

静岡市のケアマネも「市内の事業所では年金収入の少ない透析患者を受け入れ、週3回の病院への送迎もしてくれて。他の施設は入所前の手続きなどが煩雑で、必要ときに入所できない」と指摘する。

80代の父親をお泊まりデイに預けている読者は「最初は普通の家で大丈夫かなと心配したが、スタッフが優しい。大きな施設より小さな住宅での生活の方が父も落ち着く」という。

措置控え

千葉県内のある養護老人ホームでは定員割れが続く。2005年度から市町村が費用を全額負担するようになり、措置で新しく入所する高齢者が急減した。

いまは定員約80人に対し、入所者は約70人。このうち2割ほどは東京都内の自治体から入っているという。県内の市町村に問い合わせても「対象者がいない」という返事が多い。施設長は「措置は自治体の胸三寸で決まる。困った

低額施設受け皿

養護に入れない高齢者らの受け皿の一つが「無料低額宿泊所」だ。10年現在で全国に488カ所ある。

生計が立てられず住む場所がない人を無料や低料金で宿泊させる施設で、生活保護を受ける人が自治体の紹介などで入ることが多

ホーム入所「自治体の胸三寸」

措置控え

市町村は、貧しかったり身寄りがなかったりして自力で暮らせない高齢者(65歳以上)がいた場合、養護老人ホームに入れて保護する。これを「措置」と言う。介護保険を使う特別養護老人ホームなどちがい、月20万円前後の費用を市町村が負担する。

かつては国が半分、市町村が4分の1~半分を負担していたが、地方への税源移譲にともなって05年度から市町村の全額負担になった。これを機に、財政が厳しい市町村では、養護に入れず、国が主に負担する生活保護などを受けさせる「措置控え」が相次ぐ。

い。運営するには都道府県などへ届け出なければならぬ。

茨城県ひたちなか市にある「はまなす寮」もその一つだ。月の宿泊代は食事付きで1人だと8万1千円、夫婦など2人だと12万円。15部屋あり、自治体の紹介で最大20人を受け入れ、就職先探しなど自立の手助けをしている。

いまは22~75歳の20人が入居し、生活保護を受けて宿泊費を払っている。住む家がない若者、老人ホームに入れない高齢者、障害者など様々だ。ここで農業の仕事などをしながら、自活できる仕事が見つかれば出て行く。

施設長の山田勝義さんは「はまなす寮を10年につくった。」「社会保障制度で救われない人を受け入れてきた」と言う。「(貧しい人を利用して)もうける」貧困ビジネスの温床と言われるが、うちは違う。医療費削減の影響で病院から出されたり、派遣切りにあつたり、行き場のない人が来る。国にはその実態をわかってもらいたい」